

2019年 東洋経済新報社
CSR調査・評価説明会(大阪特別資料)

過去のCSR企業ランキング 結果と株価分析

2019年5月10日(金)

株式会社東洋経済新報社

『CSR企業総覧』編集長、財務・企業評価チーム

岸本吉浩

CSR企業ランキング上位の 株価は上がっているのか？

- 7年前のCSR企業ランキング上位企業の株価の変化は？
- 対象：2012年版CSR企業ランキング
- 調査締め切り：2011年8月
- 『CSR企業総覧』2012年版発売：
2011年11月
- 2012年2月⇒2019年3月の株価は？

順位	社名	2012年2月 (円)	2019年3月 (円)	上昇率 (%)
1	富士フイルムHD	2,057	5,034	144.7
2	トヨタ自動車	3,355	6,487	93.4
3	ソニー	1,737	4,645	167.4
4	富士通	4,410	7,986	81.1
5	シャープ	5,720	1,218	▲78.7
6	デンソー	2,687	4,317	60.7
7	富士ゼロックス	—	—	—
8	リコー	747	1,157	54.9
9	NTTドコモ	1,388	2,451.5	76.6
10	ホンダ	3,095	2,995	▲3.2
			平均	66.3

■日経平均

上昇率118.1%
(9,723.24⇒21,205.81)

■TOPIX

上昇率90.4%
(835.96⇒1,591.64)

全体的に株価は
上がっているとは
言いにくい

上位企業の株価チャート

■1位富士フイルムHD:上昇率144.7%

■3位ソニー:上昇率167.4%



出所:『会社四季報CD-ROM』2019年2集春号



出所:『会社四季報CD-ROM』2019年2集春号

上昇率が低いランキング上位2社

■8位リコー:上昇率54.9%



※ポイント:2012年3月期は赤字。その後は業績順調だったが、2018年3月期は再び赤字

出所:『会社四季報CD-ROM』2019年2集春号

■10位ホンダ:上昇率▲3.2%



※ポイント:2012年3月期までは減収傾向。その後は増収。2018年3月期は最高益

出所:『会社四季報CD-ROM』2019年2集春号

考えられる理由は？

- すでに株価が高い水準にある
よい会社であることには変わらない。
- 環境や人材活用などのCSR・ESGテーマが株式投資の
選定条件に入っていない
- CSR企業ランキングのレベルが低い？

一方、成長企業はどうか？

- 2012年版CSR企業ランキング高成長企業上位
- 3年平均の総合得点上昇率
- 2012年2月⇒2019年3月の株価は？

順位	社名	2012年2月 (円)	2019年3月 (円)	上昇率 (%)
1	協和エクシオ	744	3,055	310.6
2	リンナイ	5,900	7,830	32.7
3	ツムラ	2,343	3,365	43.6
4	ワコールHD	2,030	2,752	35.6
5	大東建託	7,160	15,430	115.5
6	前田建設工業	321	1,098	242.1
7	日本電産	3,840	14,025	265.2
8	東芝テック	1,505	3,075	104.3
9	住友林業	739	1,537	108.0
10	日本化薬	764	1,308	71.2
			平均	132.9

■日経平均

上昇率118.1%
(9,723.24⇒21,205.81)

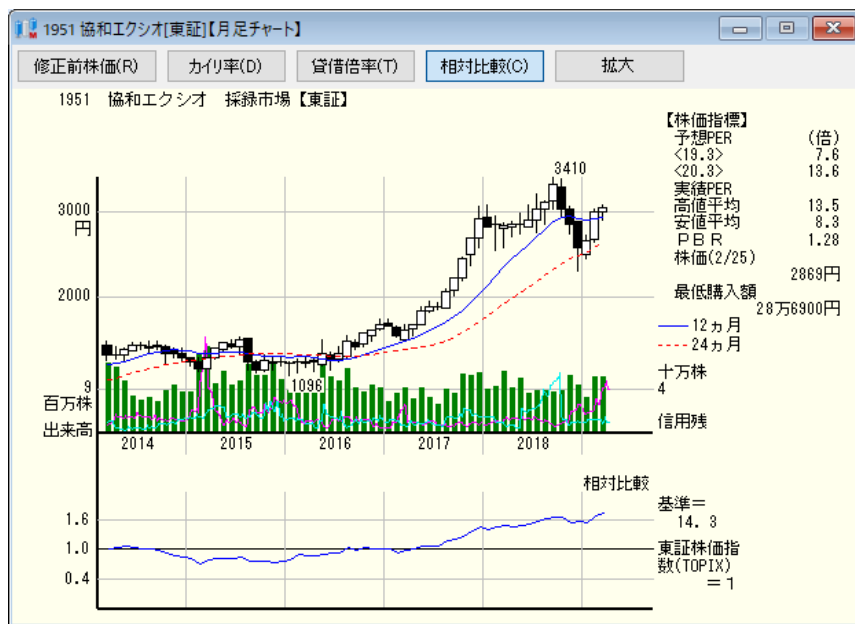
■TOPIX

上昇率90.4%
(835.96⇒1,591.64)

日経平均やTOPIXよりはよ
さそう！

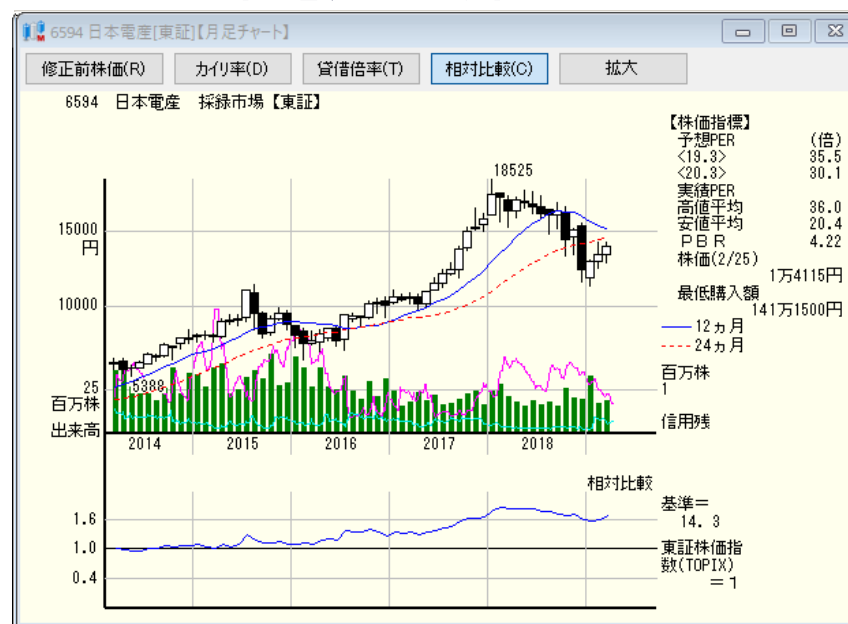
上昇率 100%以上も多い

■1位協和エクシオ:上昇率310.6%



出所:『会社四季報CD-ROM』2019年2集春号

■7位日本電産:上昇率265.2%



出所:『会社四季報CD-ROM』2019年2集春号

成長率の高い会社は なぜ株価が上がったのか？

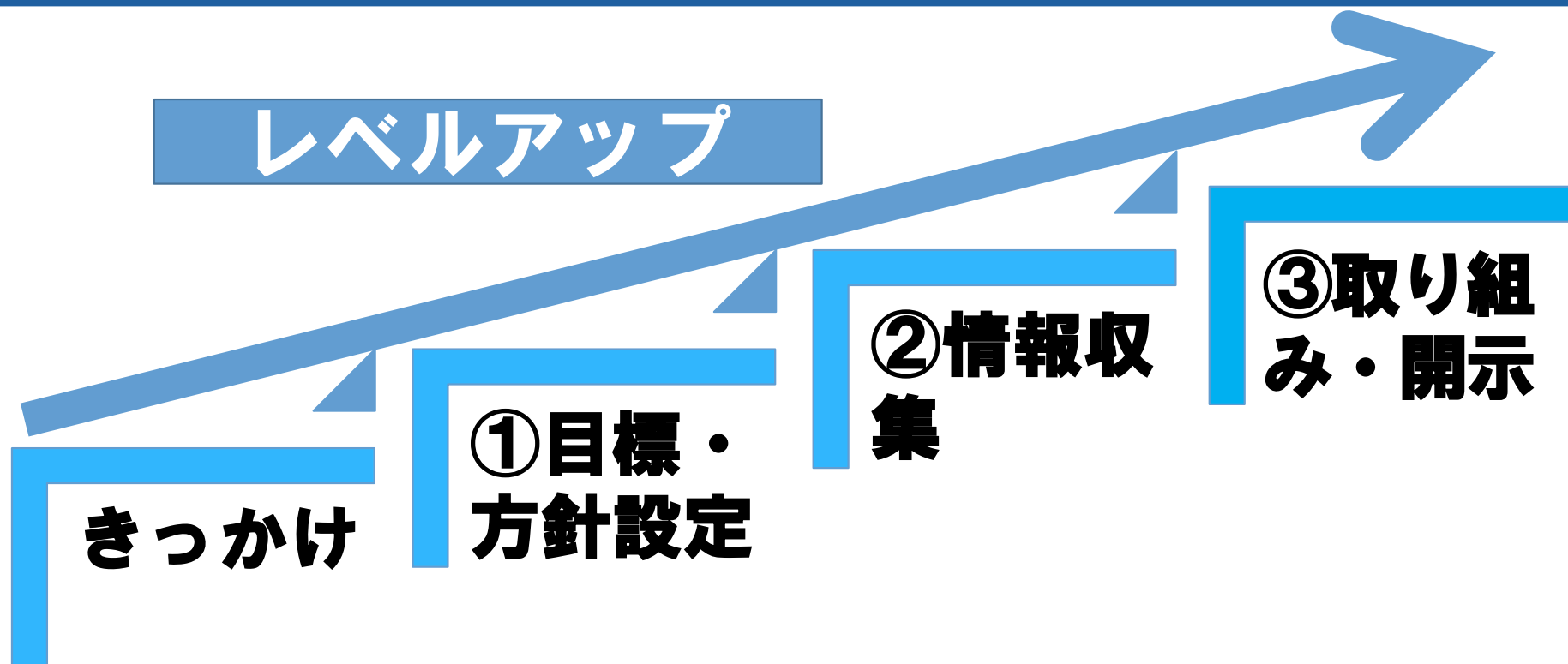
理由A：好業績でCSR に関する取り組みが 行いやすかった

- 業績がよくなり余裕
ができたのでCSR
の取り組みを加速し
た
- お金をかけられる環
境かどうかの違い

理由B：CSR活動を 進め何らかの効果で企 業価値が高まった

- 社内のサステナビリ
ティ意識が高まり企
業価値が増した
- 社会課題解決等を行
うなかで競争力が増
した

大きく上昇する会社の典型的なケース



CSR企業ランキングの上昇企業で多いパターン

現時点の私の考え

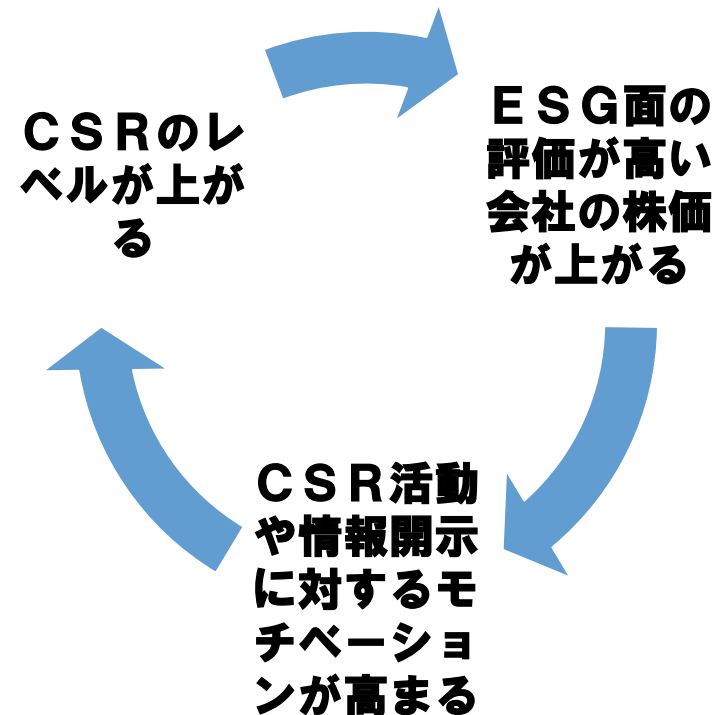
- CSRの一定水準までの伸びは株価上昇の先行指標として使えそう
- 一方で株価下落はCSRではわかりにくい
高評価はしばらく持続するが、業績悪化は一気に来る。
- ランキング上位企業の数年後の株価上昇を予想するツールとしてESG（CSR）評価は（現状では）難しそう
- SDGsは長期的な評価基準であり、短期の評価は難しい
- 不祥事が発生する会社は内部通報件数が少ない傾向にある。
他の項目が充実している場合は特に注意が必要
- ただし、不祥事が起きても高評価企業は自浄作用が働き、復活し株価も極端には下がらない

ESG投資が広まっていくと

■判断基準が変わっていく

- 「ROEが高い」とよいと同じように「女性管理職比率が高い会社」がよいという考え方に
- 開示情報が多い会社や積極的にCSRに取り組む会社が評価される
- ESG(CSR)の指標が広まっていくことで、さらに進んでいく
- ランキング上位企業でもさらに株価が上がるようになるかも

■よい循環になっていく可能性



多くの人々がESGについて 詳しくなることが大切

- 企業の担当者がさらにESG（CSR）について詳しくなる必要がある
- 客観的視点で集めた情報が必要
- ESG指数等は国内企業の相対評価で決まるため、直接のライバル企業以外に業種内のライバルの存在も重要

